

平成 24(2012)年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日	2012 年 12 月 19 日
氏名	本城 史絵
所属団体	特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン
受入機関名(所在国)	アライアンス・フォーラム財団/BRAC 大学 グッドネーバース・バングラデシュ HOPE worldwide Bangladesh (バングラデシュ)
研修期間	2012 年 8 月 19 日 - 2012 年 10 月 11 日

研修テーマ	南アジアの貧困削減プログラムをはじめとした地域開発の現状と課題を把握し、現地の視点を持って発信する手法を学ぶ。
全体研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの BOP 及び教育支援の現状と課題を自分自身で確かめ、現場経験に基づいた臨場感・説得力のある情報発信力を高める。 2. 現地団体による途上国視点での広報を学ぶ。 3. 貧困削減の手法として世界中で取り入れられているマイクロファイナンスの本場での研修により知見を深め、専門性の高い情報発信を目指す。 4. 姉妹団体との良好なコミュニケーションと連携の下地づくり。

具体的な研修内容

アライアンス・フォーラム財団/BRAC 大学

研修期間：2012 年 9 月 16 日 - 9 月 22 日

同財団主催の『マイクロファイナンス「顔の見える金融」1 週間入門コース』に参加し、BRAC 大学にて、バングラデシュにおけるマイクロファイナンスについての幅広い内容の講義と、複数の NGO のフィールド訪問により様々な規模、内容の事業を比較し、バングラデシュにおける貧困層に向けた取り組みを学んだ。

<http://www.allianceforum.org/developing/microfinance/>

グッドネーバース・バングラデシュ (GNB)

研修期間：2012 年 8 月 20 日 - 9 月 8 日 / 9 月 23 日 - 10 月 9 日

グッドネーバース・ジャパンの姉妹団体であるグッドネーバース・バングラデシュにインターンとして開発事業部へ配属され、同団体の子どもの教育支援を中心とした地域開発事業に参加した。主にスタッフへのヒアリングや受益者へのインタビューを実施したほか、現場目線での情報発信力を高めるため広報担当者へのインタビューも行った。

<http://www.gnbangla.org/>

HOPE worldwide Bangladesh (HWW)

研修期間：2012 年 9 月 9 日 - 9 月 15 日

姉妹団体であるグッドネーバース・バングラデシュ以外の NGO で研修することで、お互いの共通点、相違点などから南アジアが抱える課題を確かめ、有効なアプローチを模索することを目的として、HOPE worldwide Bangladesh が運営する、縫製工場で働く貧困層を対象とした小学校と、併設される

職業訓練校で 3 日間生徒達に混じって授業を受けた。また、国際識字デーのキャンペーン実施期間であったため、地域の 11 校が参加する識字デーイベントに参加する機会を得、先生の絵本読み聞かせ研修や識字をテーマにした児童の発表などを見学した。

<http://www.hopeww.org.bd/>

下記写真添付欄にも各研修における活動内容を記載。

研修の成果

(目標に対し達成できなかった内容がある場合は、その理由とあわせて報告してください)

成果 1.

バングラデシュの初等教育の現状と展望に関する情報収集ができた。

- ◇ 二つの NGO の活動現場を訪問し、幼稚園や小学校の授業を見学した。識字のイベントのほか学校運営と子ども達の日常生活を垣間見ることができ、決して良いとは言えない環境で努力する先生や NGO スタッフの様子や、ハード・ソフトにおける様々な問題を実感した。

学校による教育（英語）レベルの差。都市部に近い NGO 校の 4 年生は積極的に英語で話しかけてくれる生徒も多かったが、田舎の政府校では、5 年生の子どもが英語で自分の名前を書くことすらできなかった。

雨季に薄い鉄板屋根の学校に雨が降った時の音、暑さ、暗さを体験。実験室等の設備がなく理科の授業も教科書を読むことが中心になっている。一方、PEDP（Primary Education Development Program）に示される政府の教育方針の中で、“Child Friendly Education”があり、NGO 校の中でも子どもの心理や興味を引く授業の研究会があるなど、授業を楽しくしようという考え方が広まりつつある。

- ◇ NGO 側からの視点だけでなく政府による教育支援の取り組みについて知るため JICA バングラデシュ（専門家が教育省にアドバイザーとして入っている）を訪問し、バングラデシュの教育制度や基礎情報を入手した。また、小中学校や PTI（初等教員訓練校）に派遣されている青年海外協力隊員に話を聞いた。

小学校就学率 95.6% 内、終了率 60.2%（2011）

バングラデシュの教育制度（学業年度 1 月開始 12 月終了）

G1-5	初等教育（義務） Primary	PSC (Primary School Certificate)
G6-8	前期中等教育 Junior Secondary	JSC (Junior School Certificate)
G9-10	中期中等教育 Secondary	SSC (secondary School Certificate)
G11-12	後期中等教育 Higher Secondary	HSC (Higher School Certificate)
G13-16	高等教育 Bachelor Honers Master Doctor	

2 年前に義務教育を将来的に 8 年に変更する予定であると発表され、2010 年の政府の政策に含まれているが、現在のところ実施計画は明らかではない。

バングラデシュ政府によると初等教育の入学率はほぼ 100%達成とされている。しかし、現地スタッフによると学校に通っていない子どもは多い。家の手伝いや児童労働、結婚などによる中退率（2008 年 49.3% 2010 年 39.8%）も高く、まだまだ教育支援は必要と感じた。

小学校のタイプ（出所）DPE 初等教育局（2008）

政府校：政府が財政支援する小学校 37,672 校

非政府登録校：教育に関心のある人たちが建てた学校を後から政府が承認・登録し、財政支援を行う小学校。20,107 校

NGO 校：NGO が運営する小学校。教育省が把握していない小学校が昨今多く設立されている。229 校

マドラサ校：イスラム教育を中心に政府の標準カリキュラムを加えた学校。6,726 校

他、6 タイプの小学校がある。一般的には政府校に入学するのが主流だが、政府校が遠い、制服を買うお金がない、中退後の再入学がしやすいという理由で NGO 校に入る子どもがいる。NGO 校には、制服やノートの支給、給食などのプラスアルファがある。

PTI（初等教員訓練校 Primary Training Institute）

初等教育資格（C-in-Ed）を発行する研修機関で各県に一校弱設置。基本 5 教科の他、体育、宗教、教授法について一年間の研修を実施。NGO 校の先生は受講資格対象外となっている。対象校における資格取得率は 73.1%。

参考：BANBEIS (Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics)

<http://www.banbeis.gov.bd/webnew/>

成果 2

活動の受益者や支援地域の家庭訪問により、一部地域の家庭の経済状況や生活を実際に見て、動画やインタビュー記事など広報に活かせるデータを収集できた。

訪問地域も、都市部、地方、縫製工場密集地域、とそれぞれに特徴的な現場を見学することができた。地方では地域住民参加型の地域開発プロジェクト、都市部では地域全体を巻き込んだ開発が難しく、家族単位を対象とした事業が中心となっている。縫製工場密集地域では、縫製工場で保護者のどちらかが働き、世帯収入が月 15000 円の家庭を支援対象としていた。

◇ ヒアリング対象者

GNB：学生ボランティア、Operational Director、職業訓練のトレーナー、女性による信用組合のリーダー、マイクロクレジットの借入人、教育事業コンサルタント、Meddical assistant、Meddical Doctor、補習プログラムの先生、支援を受けている子どもの母親数名、支援を受けている子ども数名、広報担当者

HWW：Project Manager、支援を受けている子ども数名、支援を受けている子どもの保護者数名、事務局長、

◇ 参加ワークショップ

Urban PESP ToT training（初等教育の補助プログラムの先生をトレーニングするためのトレーニング

Subject based training of trainers Course（トレーナーとしてのトレーニングを学ぶ）

Training on M&E for Volunteer（地域ユースボランティア対象の活動モニタリング講習）

Training on IGP（女性グループ対象収入向上活動講習）

成果 3

近年、貧困削減の手法として注目を浴びているマイクロファイナンスの本場バングラデシュで、マイクロファイナンスを基礎から学ぶ一週間の研修に参加した。マイクロファイナンスは貧困をなくす魔法ではなく、金融サービスへのアクセスや収入の平均化といった効果が重要であり、必ずしも連帯責任で返済するグループを作ったり、ビジネスを始めたりする必要はなく、各地域や実施機関でまったくちがうことが分かった。

◇ BRAC 大学講義

講義ではマイクロファイナンスの成り立ちから、成功例、失敗例、進化するマイクロファイナンスの形態について多角的に学んだ。2011 年時点、バングラデシュでは 3 千 5 百万人の人がマイクロファイナンスのローンを借り、480 のマイクロファイナンス機関がある（内、三大 MFI と呼ばれる BRAC, グラミン, ASA が 80% を占めている）

- ・マイクロファイナンスの成り立ち・背景・効果
- ・様々な金融サービスモデルとその実態
- ・マイクロファイナンス機関の運営・業務
- ・貧困層への金融商品の範囲
- ・マイクロファイナンスをめぐる規制構造
- ・マイクロファイナンスの今後など。

◇ フィールド訪問

複数のマイクロファイナンス機関を訪問し、受益者へのインタビューを行った。（一部を下記写真添付欄で紹介）。ただし訪問した活動現場の人々は訪問者慣れしている様子で、質問をしてもお手本のような答えしか返ってこず、通訳を通さずベンガル語で対面でインタビューしなければ本音は見えてこないと感じた。このほか、企業として社会貢献を目的とした持続的な取り組みを目指す会社を訪問する機会もあり、バングラデシュ人の開発へ向けた熱意と可能性を見ることができた。

訪問したマイクロファイナンス機関（MFI）

- ・SAFE SAVE スラム地域に的を絞った柔軟性の高いマイクロファイナンス
- ・BRAC マイクロファイナンスの顧客になりえない最貧困層を対象とした “Ultra poor Program” という、返済不要の家畜支援プログラム
- ・ASA 少人数のスタッフで無駄を省き、効率を重視した運用。厚さ 3 センチのマニュアルで、職員や備品の数、フィールドに持ち出す鉛筆の数まで決まっている。
- ・BURO グラミンスタイルと呼ばれる、5 人組連帯責任の典型的な手法を維持

成果 4

活動国内での広報について、広報担当にインタビューを行った。

- ◇ グッドネーバーズ・バングラデシュの WEB サイトは、今までは英語だったが、国内の人々向けに活動報告を充実させファンドレイジングに繋げる目的で、ベンガル語のサイトにリニューアルしていた。最近ブランド作りや、国内でのファンドレイジング・説明責任を意識するようになり、フェイスブックは頻繁に更新している。現時点でツイッターは一般的ではないため使用していない。グッドネーバーズ・ジャパンのフェイスブックページで情報をシェアし合うなど、今後お互いに協力できる関係を作れた。

完成した WEB サイトはこちら。 <http://www.gnbangla.org/>

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法

本研修を通して、「バングラデシュの現状と課題」について多くの知識と体験を得、支援者や寄付を考えている人が知りたいと考えている、「生の声」を自分の言葉で伝えることができるようになった。ここで得たインタビューや動画のデータをまとめて、支援者サービスや企業担当など日本事務局のスタッフと共有することで、多方面に説得力のある情報発信が可能となり、支援の継続や新規寄付者の獲得に繋げることができることが期待される。

まずはバングラデシュの支援者を主に対象とした報告会の場を設け、その機会にスタッフや参加者からフィードバックを受けて、伝える内容や方法を精査していく。

バングラデシュで構築した多くの関係者とのつながりを、現場視点のオリジナル開発教育教材の開発にも活用したい。姉妹団体との新たな横のつながりは情報交換をスムーズにし、事務局の作業の質の向上と効率化に繋がるものである。

また、本団体に関わる学生団体や、国際協力について学ぶ中高生、イベントやボランティアに参加する一般市民に対して、現地の状況や国際協力の重要性、依然として注目され続けているマイクロファイナンスについても、臨場感を持って説明ができるようになった。これにより、将来 NGO に関わらず国際協力の分野で活躍する人材の育成に多少なりとも寄与できればと考えている。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等

今回、研修受講型で参加させていただいたが、研修前後に二カ所の NGO にて短期のインターンとして活動に関わらせてもらい、実務研修型と両タイプの研修を合体したような内容となった。しかし、あくまで研修受講型であるため、受入機関に支払う経費は支給されない。今回は大きな出費は無かったが、この様な場合、受入 NGO の状況によっては負担になったり、研修に支障が出たりすることもあるかもしれず、柔軟に対応して頂けるとありがたいなと感じた。

その他

(総合的に研修成果を理解するために、写真類、スタディ員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、あわせて添付願います)

* 写真等は研修状況を理解するのに効果的ですので、積極的に添付いただけますようお願いいたします。

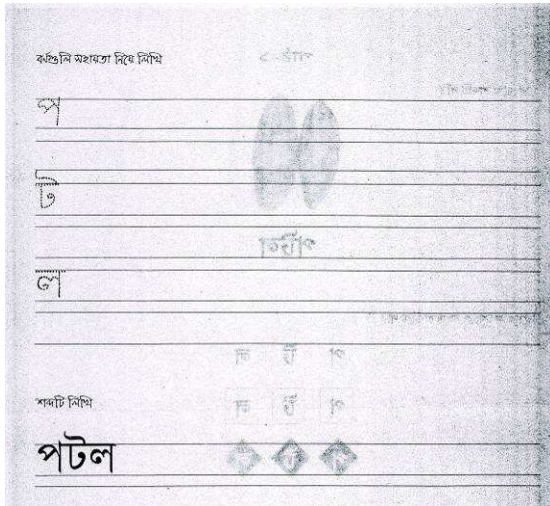
グッドネーバース・バングラデシュ



グッドネーバースが運営する小学校では、母親達で作った制服をグッドネーバースが買い取り、子ども達に提供している。



信用組合の女性メンバー。マイクロファイナンス事業のローンオフィサーの役割を担っていて、組合員に貯蓄やローンなどの金融サービスを提供している。7月から始まったマイクロクレジットのローン借入人の選定や事務作業を行う様子を見学した。

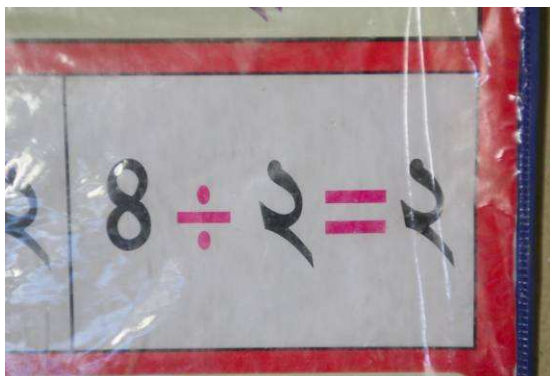


成人識字教育のテキスト。学校に行ったことがない、または一年生程度で中退した人などが対象。ベンガル語の読み書きを一から学べる。週5日、二時間の授業で一年間のプログラムで男女別にクラス30名ほどが受講。皆初めは、「自分には無理」と言うが、「子どものために読み書きができたほうが良い」と言うと、頑張って学ぼうとする。

HOPE worldwide Bangladesh

No	Names	Age	Sex	Marital status M/U/m
1.	Roham	40		
2.	Bobita	20		
3.	Rupshana	8		
4.	Sharmin	7		
5.	Shathi	3		

同団体が運営する小学校へ、8歳の長女の入学申込に来た家族は、夫40歳、妻20歳、子どもが3人(8歳、7歳、3歳)。両親とも5年制の小学校すら卒業しておらず、家族の月収は1万円程度。バングラデシュではこの様な幼児婚も未だ多い。



2年生のクラスの壁のポスター。一瞬計算が間違っているように見えるが、ベンガル語で $4 \div 2 = 2$ と書いてある。



国際識字デーのイベントの一コマ

二人1組で一人が文章の誤字を直し、一人はボールをバケツからバケツにひとつずつ移し替える。二つの数を掛けて点数の高いチームが優勝。



職業訓練校

3カ月の洋裁コースを受講する女性は真剣そのもの。メジャーの数字が読めない受講生には数字の読み方から教えている。近隣の縫製工場に卒業生の雇用を斡旋する活動もしている。

アライアンス・フォーラム財団/BRAC 大学 『マイクロファイナンス「顔の見える金融」1週間入門コース』



スラムへのマイクロファイナンスに特化した MFI (Micro Finance Institution) “SAFE SAVE”

借り手はグループを作らず、ローンオフィサーが毎日訪問し、好きな時に貯金や返済ができる、都市部ならではの柔軟な運用。専用の携帯端末で借り手の貯蓄、借入状況を管理できる。不正防止のため、通帳の残高を入れて、データと整合性がなければ手続きが進まない。



グラミンスタイルと呼ばれる、5人組連帯責任の典型的な手法を維持している MFI “BURO”

ある女性は、1年前に1万5千タカ(約1万5千円)を借り一万七千円で夫のリキシャを買った。リキシャ引きの前は雇われ農民で、一日100~150タカの収入だったが今は50~300タカ。ローンは返済済みで今は貯蓄をしている。



© mPower

ソーシャルエンタープライズ “ mPower ”

携帯電話の画像と患者の症状をダッカにいる医者
に送り診断してもらい、モバイルを使った保健医
療支援システムの販売。Local Health Center
での遠隔医療なども。BRAC と組んで事業を実施
している。

また、パイロットで 20 の NGO によるネットワー
クを用い、携帯電話で世帯レベルのデータを収集
し UNDP やバングラデシュ政府の活動計画、政策
に活かそうという試みがされている

www.mpower-social.com



BRAC 大学での研修内容

- ・ マイクロファイナンスの成立ち・背景・効果
- ・ 様々な金融サービスモデルとその実態
- ・ マイクロファイナンス機関の運営・業務
- ・ 貧困層への金融商品の範囲
- ・ マイクロファイナンスをめぐる規制構造
- ・ マイクロファイナンスの今後など。

以上